

令和4年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立千代田小学校
実施日	2月9日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価」についての評価の説明及び学校の考えの欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え(○)	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・報道相ができています。必要事項が事前に連絡されており、かつ何かあれば迅速な対応を組織的に行う体制が整っている。 ○肯定的な意見が多いため、さらに進めていく。仕事量の偏りには配慮していく。	A	・保護者、地域と連携し、組織的に学校運営を進めており、大変良い。 ・教職員が一つになり、「自分の学校」として学び合いを重点に置き教育活動に取り組んでいる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・避難訓練、エビメンの使用法などの研修を通して、もしもの時の準備をしている。担任や担当主任だけでなく、すべての職員が一丸となり対応している。 ○大きなトラブルなく、1年間学校運営を進めることができた。避難訓練の工夫等、さらに考えていく。	A	・危機意識とマメールによる情報の共有化を図り、組織的に迅速に対応できている。 ・避難訓練や災害に対する注意喚起ができています。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	A	・声を掛け合い、働きやすい環境になっている。必要な言葉を絞って、仕事量を減らすことができています。年休や調整を率先して活用する職員が多い。 ○働き方改革を進めることができた。生み出した時間をどう子供へ還元するかについてさらに考えていく。	A	・7割近くの教員が、勤務体制の改善が図れていると意識できているのが素晴らしい。 ・教科担任制や支援員との協力体制をとり、教員業務の負担軽減に向けて体制づくりをしている。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	・児童を意識して、よく考えて授業している。校内研修を通して、45分学び続ける授業を実現しようと取り組んでいる。授業改善を日常的に行っている。 ○新学習指導要領の授業づくりを進めることができた。さらに、全教職員で進めていけるよう取り組む。	B	・教員自身が、まだまだ向上できるのではないかと考えているのが分かる。 ・単に教科書の内容や先生の言葉を丸暗記するだけでなく、自分で考え、調べることを指導されたい。 ・ICTの効果的な活用を期待する。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・体験活動を通しての学びがあった。道徳の時間に限らず、日々の指導の中で心掛けている。教員が強い言葉を発するのは、子供に寄り添う対応が必要。 ○子供同士をつなげ、そのつながりの中で豊かな心を育む実践に取り組んだ。まだ改善の余地がある。	B	・子供たちが無理して「いい子」を演じるのではないよう、自分自身の「考え」をもつことの重要性を指導されたい。 ・学校で仲間とともに学ぶ体験活動を重視し、授業に取り組んでいる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・多くの子供が落ち着いて過ごし、学習に取り組んでいる。ペア等の友だちを頼ることができ、安心できている。ノーチャイムでも、時間を守ることができる。 ○落ち着いて過ごすことのできる児童が多い。落ち着いていればいいか、という見方も必要になってくる。	A	・授業参観時、児童が真面目に取り組んでいるのが大変良く思えた。真面目でおとなしい児童が多い。 ・授業や学校生活(清掃活動・下校など)で友だちと仲良く大変落ち着いた様子が見られた。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・ゆとりをもって職務や子供の指導にあたる職員が多い。職業等で事例をあげ、呼びかけている。体罰をしない、させないよう学校全体で見守っている。 ○資料等を活用し、事故防止に向けて取り組んできた。今後も不断の取組で事故や不祥事を防いでいく。	A	・同僚性を発揮して、事故防止に取り組んでいる。 ・教員同士のコミュニケーションがとれているとのこと、引き続き継続してほしい。 ・恵まれた職場環境にあり、これからも風通しの良い雰囲気づくりを推進して欲しい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている態度で接している。	A	・授業づくり、生徒指導ともに一人一人を大切にしている姿勢が見られる。多様性を認めている。不登校児童への早い対応が効果的である。 ○子供の声に耳を傾けること、決めつけて接しない生徒指導などに取り組むことができた。	A	・一人一人に寄り添った、きめの細かい指導を行っていると思うが、引き続きお願いしたい。 ・子供の心に寄り添った教育の推進、誰一人置き去りにしない精神でお願いしたい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に、充実した協力体制をしている。各学級の教員が密に連絡を取り合い、よりよい指導を行えるよう努めている。 ○支援の必要な児童に対して必要な支援を組織的に行うことができた。さらに改善に取り組む。	A	・特別支援学級での個別支援や、校内適応指導教室の開設など、一人一人に寄り添った教育をしている。 ・特別支援学級と通常学級の生徒の交流が図られているとのこと、今後も進めてほしい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・毎月の安全点検や、教員が気づいた破損個所の修繕に積極的に取り組む姿勢が見られる。廊下や特別教室の整理整頓については課題もある。 ○修繕に力を入れ、安全な環境整備を進めることができた。教員自身の整理整頓への意識を高めていく。	A	・老朽化が目につくが、しっかり補修できている。 ・常に意識を高くしておく必要があるが、教職員の意識の向上が見られるのが素晴らしい。 ・努めていると思うが、予算の関係などで進んでいない部分もあると考える。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・ホームページがよい。校長の登校指導での地区見回りがよい。学校応援団の活動が活発になった。 ○保護者から、子供の様子を見る機会をたくさん設けてくれありがたいという意見をもらっている。今後もさらに開かれた学校づくりを進めていく。	A	・学校だよりやマメールの活用で情報は共有されている。引き続き学校、地域、保護者の連携は密にしてほしい。 ・学校応援団の活躍は見ることができていないが、教員の目から見てよく助けていただいているのがわかる。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・学校運営協議会については、定期的に会議を開催し、適切に運営されている。会議の内容について、さらに情報共有を進めるとよい。 ○学校運営協議会は地域の方とつながり、子供たちのために連携していく場となった。会議の内容についての情報共有、情報公開の仕方については改善す	B	・学校や地域、子供たち(家庭)が抱える課題に対して、関係者が皆当事者意識をもち、学校を核とした地域ネットワークのもと目標達成のため推進する。 ・名前が変わって初年度だが、色々な人の意見が聞けるのは参考になると思う。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・中学校との連携がもう少しとれたらよい。Jプランの教員が在籍しているおかげで、連携を進めることができた。小中連絡会や授業公開ウィークの取組のおかげで、今年度は小中連携が進んだ。 ○教務主任同士のつながりを生かし、授業を見ること等を通して小中連携が進んだ。	B	・中学校入学時、不安の無いよう、引き続きお願いしたい。 ・中学校との連携を図った授業参観ウィーク等の取組により、大幅に評価が上がりました。 ・学校運営協議会に中学校長が入り、様々な学校行事にも参加され、連携が図られている。